

ISO/TC 46/SC 8/WG 4 (図書館パフォーマンス指標)

日時：2013-01-15 13:00-17:30

場所：DIN ドイツ規格協会 (ベルリン)

議長：Roswitha Poll (ドイツ)

出席者：コンベイヤー：John Bertot (米国) ドイツ 2 名 (議長及び事務局), ノルウェー, フランス, 米国, 英国, 日本

2. 出席者自己紹介(省略)

3. 議事次第承認

4. 議事

ISO 11620 CD 投票(2012-12-30)は, 24 か国投票, 22 か国賛成(コメント 5 か国), 反対 0, 棄権 2 という結果であった。

各国のコメントは, 編集・技術的なものが大半だが, 方法などの提案もあった。検討の結果, 3 月度をめぐりに改正案を完成させ, DIS 投票に付託する準備を進めることとした。

主な修正としては,

- ・指標の概念位置の変更 (B.1.1.4 B.1.2.6, B.1.1.6 B.1.2.7, B.1.1.7 B.1.2.8, B1.1.8 1.3.4)
- ・B.1.1.5 コレクション中のデジタル化された文書の割合: 1000 件当たりのドキュメントのデジタル化の割合を, パーセントを求める指標に修正する。
- ・B.1.17.4(B.1.2.8.4) 補修等が必要な既刊本の割合: reporting period を追加する。
- ・B.1.3.1.3 人口あたりのユーザーエリア: 定義に住民 1000 人当たりを入れる。関連して方法の記載修正を行う。
- ・B.1.3.3.5 需要に応じた開館時間: 指標解釈の厳密化と, 例示方法へのコメントを付す。
- ・B.1.2.5.4 レファレンスの応答時間 受付: 手法によって分けることができると Note で示す。
- ・B.2.1.1: 回転率: 更新はカウントから除く。
- ・B.3.3.1.4 FTE の計算方法の統一 B.1.4.1.4 の形にする。
- ・B.4.2.4.5 連携等のプロジェクトでのスタッフ参加率: integer real
- ・いくつかの個所での project-related employees/staff などの用語の統一 project staff に統一する。

日本のコメントは上記のものを含めて, JIS X812:2012 を作成する際企画調整会議から指摘された点を含むものだったが, ほぼ受け入れられた。

(なお, 2 月 21 日に現時点での改正案がコンベイヤーから配付された。)

次回の WG4 は, 10 月 14 日の週に設定する。